

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 言語コミュニケーション文化研究科 |
| 大項目 | 6 教育内容・方法・成果（研究科） |
| 中項目 | 6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 |
| 小項目 | 6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。 |
| 要素 | 学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示 |
| 小項目 | 6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。 |
| 要素 | 教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示 |
| 小項目 | 6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。 |
| 要素 | 周知方法と有効性 社会への公表方法 |
| 小項目 | 6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。 |
| 要素 | |

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗評価 | | | | |
|------------------------------------|------------------------------|------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 「言語コミュニケーション文化学」に関する専門家の養成を目指す。 | →カリキュラム委員会においてのカリキュラムの定期的検証。 | A | A | | | |
| 2. 社会人学生を受け入れ、高度職業人の養成を目指す。 | →大阪梅田キャンパスでの開講数。 | A | A | | | |
| 3. 課程博士学位授与者を毎年度1名以上輩出する。 | →研究指導体制の改善、公表。 | A | A | | | |

☆

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

| | |
|----------|--|
| 小項目6.1.1 | 6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。 (方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ → ● 明示している ○ 明示していない (学位授与方針) 本研究科は言語コミュニケーション文化学の専門家の養成を目指している。前期課程では、言語コミュニケーション文化学の4つの研究領域に対応した学位(言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学)を授与する。後期課程では、言語コミュニケーション文化学の学位を授与する。 (説明) 前期課程、後期課程ともに、言語コミュニケーション文化学にふさわしい横断的・総合的カリキュラムを実施し、研究内容に対応した学位を授与している。2010年度の修士号取得者は24名、博士号取得者は2名。 |
|----------|--|

| | |
|----------|--|
| 小項目6.1.2 | 6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。 (方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない (説明) 研究演習Ⅰ、研究演習Ⅱ、課題研究などゼミ(3科目)を必修とし、言語コミュニケーション能力養成科目・実践科目などを、選択必修科目(19科目)、各領域科目を選択科目(45科目)とし、充実したカリキュラム体制をとっている。教育課程の編成・実施方針については、研究科のホームページ、履修心得等によって明示している。 |
| 小項目6.1.3 | 6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない (説明) 教育目標・学位授与の方針は、入試要項並びに研究科のホームページ等で公表している。 |
| 小項目6.1.4 | 6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性についてはカリキュラム委員会、研究科委員会で定期的に検証を行っている。 |
| その他 | |

《評価指標データ》

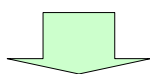
カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
必修・選択ごとの開設授業科目数
系列別卒業必要単位数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

| | |
|-----------|--|
| 小項目6.1.1 | 教育目標に基づき、学位授与の方針が明確に明示されている。 |
| 小項目6.1.2 | 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針が十分に明示されている。特に社会人を対象とした夜間コースは、大阪梅田キャンパスで授業が行われており、高度職業人の養成に貢献している。上ヶ原での授業は69科目、梅田では34科目開講している。 |
| ★小項目6.1.3 | 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員に周知され、社会に公表されている。 |
| 小項目6.1.4 | 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性については、カリキュラム委員会を年間4回開催することによって、定期的に検証を行っている。 |
| その他 | |



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

| | |
|-----------|---|
| 小項目6.1.1 | |
| 小項目6.1.2 | 社会人を対象とする夜間コースは現職の英語教員の再研修の場としても意義があるので、社会人を対象にした広報活動にも力を入れる。 |
| ★小項目6.1.3 | |
| 小項目6.1.4 | |
| その他 | |

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

| | |
|---|--|
| 【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。 | |
| 小項目6.1.1 | |
| 小項目6.1.2 | |
| ★小項目6.1.3 | |
| 小項目6.1.4 | |
| その他 | |

↓

| | |
|--|--|
| 《次年度に向けた方策(2)》改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。 | |
| 小項目6.1.1 | |
| 小項目6.1.2 | |
| ★小項目6.1.3 | |
| 小項目6.1.4 | |
| その他 | |

◎自由記述

| | |
|--------------------------------|--|
| 【点検・評価】&【次年度に向けた方策】 | |
| ★その他 (自由記述) | |

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】
 ○小項目6.1.1は、「方針を明示しているかどうか」なので、(説明)もそれに対応していることが望まれます。どのような媒体で、どのように周知の努力をしているかが求められています。
 ○小項目6.1.2の説明の前半部分は、中項目6.2のカリキュラム編成方針のところに配置するのが適切でしょう。
 ○全体として順調に推移していると評価できます。

【学内委員】
 ○教育目標やこれに基づく教育課程の編成・実施方針、学位授与方針などについて、HPや履修心得などによりきちんと公表しているなど説明責任を果たしており、大変評価できます。
 ○目標に対し着実に進展しています。
 ○学位授与方針欄に記載の内容は、学位の方針です。学位授与の方針は、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(修了要件)等を明確にしたものであり、理念・目的を踏まえ、設定されているものである。学位の授与の基準については、「客観的な授与基準と授与手続きを内規で定めている」とのことが別項目に出てくる、ここではその内規の内容を示すことが求められます。
 ○学位授与方針や教育課程の編成・実施方針における、明示、周知、公表、ならびにその検証については確実に行われていることが伺えます。ただ、学位授与方針については、「学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示す必要がある。」と大学基準協会が解説しています。全学的に検討されていると思いますが、この観点から学位授与方針をお考えください。
 ○設定された目標は、本項目ではなく「6.2 教育課程・教育内容」「6.4 成果」での目標ではないでしょうか。また、進捗評価がすべて「A」ですので、目標を再検討することをお考えください。
 ○「教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。」に関し、方針を記す欄が(理由は不明ですが)削除されてしまっています。方針の記述をお願いします。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.1.1
 基盤評価：「課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与方針を、理念・目的を踏まえ、設定していること」
 達成度評価：なし

○小項目6.1.2
 基盤評価：「学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること」
 達成度評価：なし

○小項目6.1.3
 基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること」
 達成度評価：なし

○小項目6.1.4
 基盤評価：なし
 達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

現状の説明 小項目6.1.1 (学位授与方針)

★ 前期課程では、言語コミュニケーション文化学の4つの研究領域に対応した学位(言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学)を授与する。修士学位は、所定の単位を取得し、修士論文あるいは課題研究論文を提出し、3名の論文審査委員による審査に合格した者に授与する。後期課程では、言語コミュニケーション文化学の博士学位を授与する。博士学位は、所定の科目を履修、博士候補者資格試験に合格、全国的学会誌に2編以上の掲載などの条件を満たした上で、博士論文を提出し、1名の外部審査委員を含む4名の論文審査委員による審査に合格したものに授与される。